

本単元で身に付けたい力

自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して書く力

言語活動とその特徴

○新聞の投書を読み比べて学んだ説得の工夫などを使って、必要な情報を集めて自分の意見を投書として書く。児童が、それぞれの投書について書き手の主張をとらえたとともに、構成や説得の工夫を見つけ、4つのポイントから選択した内容を使って実際に投書を書き、友だちと交流する。そうすることで、子どもたちが考えを広げたり深めたりしながら、自分の考えを表現できるようになると考える。

教材の特質

○本教材は、「スポーツをすることの目的(意味)」について書かれた一つの投書につなげて寄せられた三つの投書を紹介したものである。四つの投書が、同じ構成で書かれていて説得力を持たせるための工夫が具体的に示されているので、自分で投書を書く際にも活用することができ、新聞の投書を読んだり書いたりすることに適した教材である。

児童の実態

○5年生の「新聞記事を読み比べよう」では、どんな記事をどうやって伝えるかという意図をもって書く学習をしている。書き手の意図を読み取る学習をしている。また、6年生5月の「イースター島にはなぜ森林がないのか」では、自分の考えを明確にしなが、教材文に対する自分の考えを書いてまとめる学習をしてきた。
○昨年度の高知県学力定着状況調査の「書くこと」の領域「事実と意見を区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」の問題では正答率66.7%で十分力が身に付いているとはいえない。そのため友だちとの学び合いを重視しながら書くことの力をつけていきたい。

指導観

○第一次では投書とはどういうものかを確認し、単元のゴールでは自分で書いた投書を投稿するという目的意識を持たせる。そしてそのためにはどんな学習が必要なのかを自分たちで考えて学習計画を立て、主体的な学びを目指していく足掛かりとする。
○第二次では、一次で明確にした課題を改善するために、教科書の投書の構成や説得の工夫を捉え、4つの投書から読み取っていく。
○第三次では、自分の投書を友だちと推敲し、練り直して自分の考えを広げ深めて、よりよい投書を仕上げていける学びにつなげたい。そして、日常生活の中で新聞に関心を持ち、新聞を読もうとする姿が増えるようにしていきたい。

学習過程	主な学習活動	言語活動	指導上の留意点
第一次	①学習課題をつかみ、学習の見通しを立てる。 ②実際に投書を書いて子どもたちの困り感から目的意識を高めていく。	自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、読み手を説く。	○「新聞記事を読み比べよう」での学習を想起させる。 ○教科書の投書を参考に、自分で投書を書くことの見通しを持たせる。 ○これからどんな力が必要かを考えさせる ○新聞の投書を読んで投書を実際に書き、どんなことが困ったのかを出し合う。そして、読み手を説得するためには何が必要かを実感させる。
第二次	③投書①～④を読み比べ、それぞれの投書について書き手の主張をとらえ、構成や説得の工夫を見つける。 ④投書①～④の中から、自分が納得するものを選んで理由をまとめ、友だちと伝え合う。 ⑤読み手を説得するための情報を集め、整理し投書を書く。		○どんな構成で投書が書かれているのか確認させる。 ○書き手の読み手に対する説得の工夫を確認しながら話し合ったり書いたりさせる。 ○投書に使用したい説得の工夫を選択し、まとめさせる。 ○説得の工夫に必要な情報はどんなことがあるのかを考え、情報収集の手段や考えをまとめ整理して投書を書かせる。
第三次	⑥書いた投書を構成に着目して友だちと推敲する。 ⑦書いた投書を理由や根拠の挙げ方に着目して友だちと推敲する。 ⑧推敲した原稿を基に、投書を仕上げ、単元を振り返る。		○伝えたいことと構成、説得の工夫との関連はよいのかの視点で話し合わせる。困った時は、教科書を参考にさせる。 ○投書を清書させる。 ○単元を振り返り、つけた力を確認して今後の授業への見通しを持たせる。
<p>本単元終了時の目指す児童の姿</p> <p>新聞の投書に関心を持ち、自分から投書を読み、自分の考えを持つとする姿。</p>			

並行読書(高知新聞の投書)

単元の目標
四つの投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、自分の考えを書くことができる。

単元の主な指導事項

		主な指導事項(記号)
知識及び技能		情報の整理(2)イ
思考力、判断力、表現力等	A: 話すこと・聞くこと	
	B: 書くこと	題材の設定・情報の収集・内容の検討 考えの形成ウ
	C: 読むこと	

単元の系統性 説明文「比べ読み・表現の工夫」の系統
第5学年「新聞記事を読み比べよう」どんな記事をどうやって伝えるかという意図をもって書く。「資料を生かして考えたことを書こう」資料から情報を読み取り、読み取った情報を活用して文章を書く。
中学第一学年C読むこと(1)オ「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを明確なものにすること」

研究主題「目的に応じて必要な内容を整理し、自分の考えを明確にして書く力を高める学習指導の在り方
-学習過程の工夫と情報の扱い方に関する指導を通して-

研究主題に関わる授業づくりのポイント
教科書に出てくる四つの投書を読み比べ、文章に書かれている書き手の意図や工夫を読み取り、それを自分の力に生かすことができるようにしていきたい。
そのために、まずは全体で教科書の投書の特徴を押さえ、教科書からつけた力を自分の投書を書くことにつなげていく。その際、自分の書いた投書を項目に分けて自分で点数をつけ、それぞれが投書の書き方の観点を持って伝え合うことを設定した。点数をつけることで、なぜその点数になったのか、どこに改善点があるのか、どうすればよりよい投書になるのかを具体的に見つけ出し、対話をさせる手立てとしていきたい。さらに、全体で共有し、再度自分の投書を読み直し、初めに書いた投書よりも説得力のあるものに近づいていくことを実感させながら深い学びにつなげていきたいと考えている。

指導と評価の計画（全8時間）

		○指導目標 ・学習内容、学習活動	評価規準（評価方法）
		学習課題《 読み手を説得する投書を書こう 》	
第一 次	1	○ゴールを確認し、学習の見通しを持つことができる。 ・5学年の「新聞記事を読み比べよう」を想起し、これからどんな力が必要かを考え、投書について知る。 ・高知新聞の投書を読み、目的意識を持つ。	関新聞の投書に関心を持ち、これからの学習に意欲的に取り組もうとしている。（ノート・観察）
第二 次	2	○投書を書き、読み手を説得するためにはどんな力が必要なのか考えることができる。 ・教科書の学習をする前に実際に投書を書く。 ・困ったことを出し合い、どうすれば読み手を説得する投書になるのかを探っていく。	書投書を書き、読み手を説得するために必要なことを見つけ出している。（ノート・発言）
	3	○四つの投書を読み、書き手の意見や主張と、どのような工夫をしているかを考えることができる。 ・それぞれの6つの構成を確かめる。 ・それぞれの書き手の主張や意見、その理由や根拠をとらえる。 ・説得力があるところを考えながら投書を読む。 ・内容は違っていても構成が同じであることを確認する。	書書き手の主張や説得の工夫を捉え、自分の考えを明確にしている。（ノート・発言）
	4	○四つの投書の中から、自分が納得するものを選んでその理由を友だちと説明し合う。 ・なぜ納得したのか、理由を明確にしながらかく。 ・友だちと意見交流をし、自分の考えを広げたり深めたりする。	書文章構成や書き手の工夫から、自分が一番納得した投書を挙げて伝えている。（発言・ノート）
	5	○投書を書く内容を決め、読み手を説得するための情報を整理する。 ・構成と、書く内容を決める。 ・説得の工夫の中から選択し、必要な情報を見つけ出す。	書構成を確認しながら必要な情報と結び付け、書く内容を整理している。（ノート・ワークシート）
第三 次	6	○これまでの情報を基に、読み手を説得する投書が書けているのか構成に着目して考える。 ・構成や説得の工夫に気をつけながら投書を仕上げる。	書構成を工夫し、読み手を説得する投書が書けているか再度推敲し、書いている。（ノート）
	7 （本時）	○これまでの情報を基に、読み手を説得する投書が書けているのか理由や根拠の挙げ方に着目して考える。 ・言葉に着目して、読み手に明確に伝わる投書を目指して、友だちと推敲する。 ・推敲したところをもう一度推敲する。	書読み手を説得する投書が書けているか再度推敲し、書いている。（ノート・観察）
	8	○友だちの助言を受けて推敲した投書を仕上げることができる。 ・助言を受けて推敲した部分を確認、清書する。 ・学習を通して培った力を考え、単元を振り返る。	書これまで学習してきたことを生かして、推敲しながら説得力のある投書を書いている。（原稿用紙・観察）

主体的・対話的で、深い学びの実現に向けた授業改善の手立て

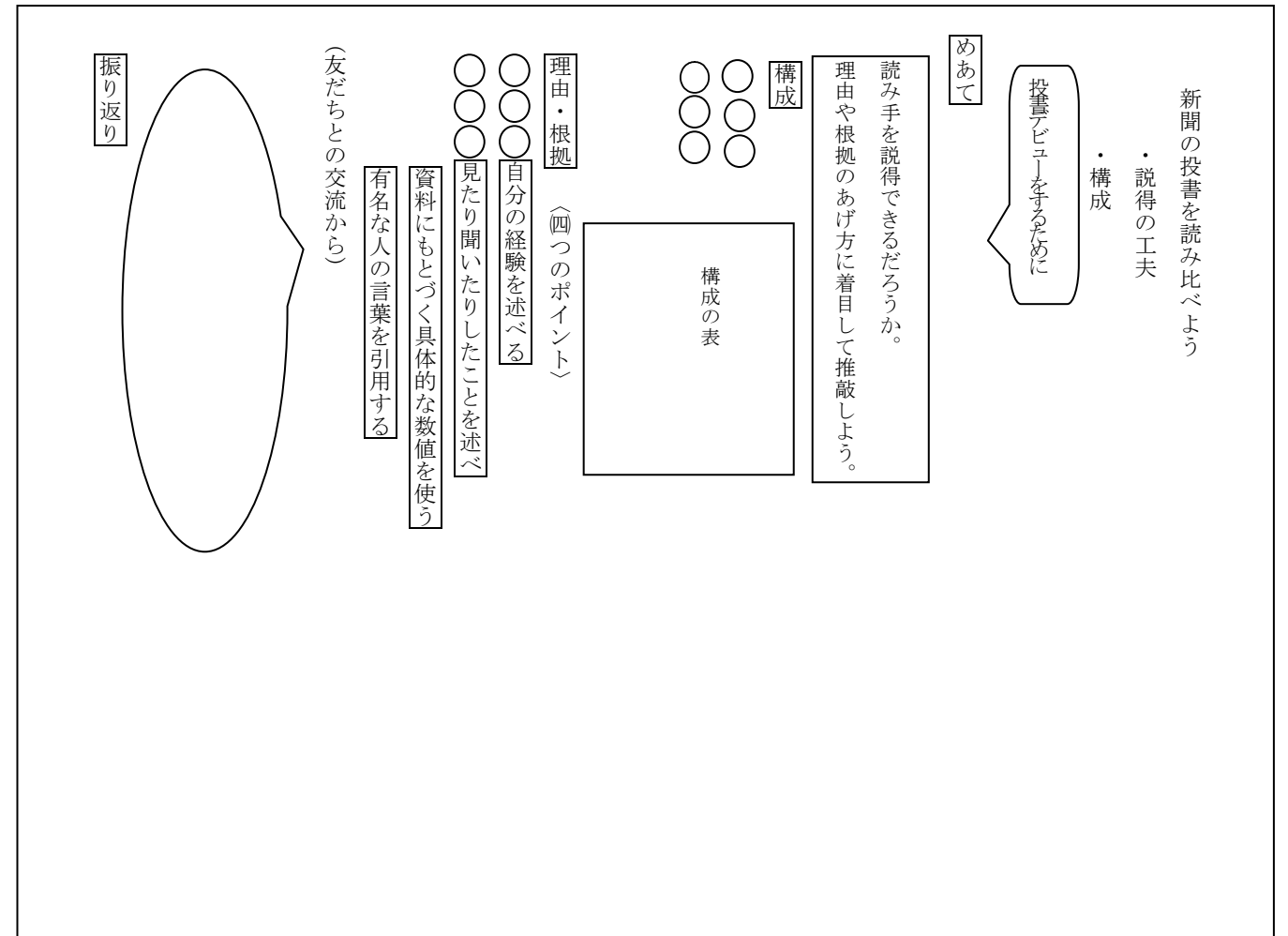
- ・これまでの学習を想起させ、めあてをみんなで考える時間を設定する。
- ・教科書の学習をする前に実際に投書を書き、子供たちの困り感から目的意識を高めていく。
- ・自分にどんな力がついたのかが分かるような振り返りを書かせることで、学びの自覚化を図る。
- ・書き手の読み手に対する説得の工夫を確認しながら話し合ったり書いたりしていく。
 - ① 自分の経験を述べる。
 - ② 見たり聞いたりしたことを述べる。
 - ③ 資料にもとづく具体的な数値を使う。
 - ④ 文章や言葉を引用して述べる。
- ・友だちと交流後、再度自分で推敲させることで、よりよい投書を目指していく機会を設ける。

第二次

教科書の4つの投書から自分の納得するもの一つを選び、その根拠を友だちと伝え合う。そのことを通して、説得するためのポイントを明確にし、それを自分の投書に生かすための手立てとする。

児童の思考の流れ

学習過程	学習活動	主な発問 (※) 予想される児童の反応 (○)	指導上の留意点 (△) 評価 (☆)
見通す	1. 単元のゴールを確認し、予習を確かめる。 2. めあてを確認する。		△単元の流れを共有し、予習を確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> めあて 読み手を説得できるだろうか。 理由や根拠のあげ方に着目して推敲しよう。 </div>		
思考・判断・表現する	3. 予習をもとにして、投書と言葉を確認する。 【個人】 4. 読み手を説得する投書を書いているか観点を基に話し合う。 【ペア】 (1) 友だちと説得の工夫を確かめなが読む。 (2) 友だちの投書について意見を交流し合う。 5. 話し合っ気付いたことを全体で共有する。 【全体】 6. 全体の意見を聞いて再度推敲し、書く。 【個人】	※書いてきた投書は何点ですか。理由も伝えながら班で話し合ってください。 ○私は、8点です。4つのポイントから選ぶことができたし、理由や根拠もかけたからです。でも、説得できるか自分では心配です。 ○僕は5点です。数値を入れなかったけどどんなことかはいいのかわからないからです。 ※友だちとの交流を通して、良かったところや、新しい気づきがありましたか。 ○交流して、もっと詳しく理由を書かないと説得力がないと教えてもらいました。 ○ここに数値が入る方が分かりやすいと言ってもらえました。	△どの思考スキルが使えるか確認する。 △お互いに投書を紹介し合い、説得の工夫に着目して話合わせる。 △対話の時に、何について話し合うのかチェックシートで視点を明確にさせる。 △全体の意見を聞き、自分の投書について吟味し、再度推敲させる。 ☆読み手を説得する投書が書けているのか、再度推敲している。 【書】 (ノート・観察)
振り返る	7. 今日の学習を振り返る。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 家庭学習 今日の交流を基にして、推敲し、清書ができるようにしてくる。 </div>	※他の友だちからの意見でどんなことが参考になりましたか。今日の勉強が投書を書くときにどう役立ちそうですか。	△今日の学習を通して、より明確に伝わりやすくするために分かったことについて振り返りを書かせる。



(4) 準備物 掲示物、チェックシート、原稿用紙・ワークシート

(3) 板書計画